

## 『同じ浄土に咲く花で』 研究結果 研究報告と2019年下半期のLABOについて

『同じ浄土に咲く花で』研究を終えて約3週間。臨時研究員の皆様、研究発表にご来場いただいた皆様に改めて感謝が芽生えております。ありがとうございました。

肉体を持たぬ幽霊という存在が肉体に依存した色情狂であるという相反するようなテーマをいまだ挑戦したことがない60分という尺の一人芝居にするという研究。制作面、ディレクション全てを担うという点でも挑戦だらけの未知数×未知数の研究でありました。

へまをするだろうけど「できる限り綿密に万全を期す」と決意し研究に臨みました。

### 【研究結果】

---

ただただ周りの皆様の協力と、「お客様が来てくれる」という現象に今まで感じたことのないような感謝と感動を発見しました。カーテンコール、こんなに心から頭を下げたことがあつたらうか。他にも公演を企画したからこそ生まれた己の初めての感情に驚くことの連続でありました。「これこそが今回の研究で得た財産だ」と確信する得難いものをいただきました。本当に本当に、ありがとうございました。

制作面では自分なりに練ったディレクション、計画通りの宣伝を行えたことは良かったと思っています。(これもまた周りの方の協力が大きかったのも、感謝感謝であります。)

しかし作品面では弓をギリギリと目一杯に張りつめさせて臨んだにも関わらず「これだ!」という弓を放てたのか?という疑問となんとも言えぬ悔しさがいまだ拭えません。

皆様が惜しめない力を貸してくれ、私も真剣に弓を放った。何も責めようのない、後悔が残ります。今までの作品も後悔と反省の繰り返し。悔しいけれど、今回も。でありました。ただ、演技の面では自分が長い時間、課題だ、と思っていたことの改善のヒントを公演中に見つけられたような瞬間があり個人的な収穫がありました。お客様、そして演出藤原さんのおかげかもしれません。

今後も、飛び込むつもりで、精進する、研究していきたいと思えます。

## 【下半期の研究】

---

今回の研究中に心から

「知らない世界が多すぎる」

「ケータイばっか見てる場合じゃない」

「稽古ないとき睡眠時間長すぎ」と反省しました。

かといって完全にケータイと睡眠を断つことはできないので

**研究速度向上のためにまず自分の生活を見直すことから取り組みます。**

発信の面ではすぐにでもLABOで舞台研究をしたいのですが

(驚くことにすでにプロットやチラシデザインなどは頭の中にできております)

それを実現させるためのお金や時間の問題もあるので

**今年は多分、ド腐れ漫画家・糞詩人としての研究をしていく予定です。**

すぐに横になってケータイでレシピを調べることばかりをする私です。

たまには仕方ないにしてもできる限り創作の時間を作りたいものです。

粛々と研究を続けていくには律する心と我慢強さが大切なのかもしれません。

---

以上を報告とさせていただきます。

今後もZURULABOをよろしく願いいたします。



ZURULABO 所長・小野寺ずる